

Agenda Magazine (アジェンダ・マガジン)

Off – Brussels Contemporary Art Fair 2014.4.25-27

—記事和訳—

ブリュッセル内外の現代美術 2014/4/24, 16.35

高島進(1959年生まれ)はインク、筆、色鉛筆などの特徴を生かした、彼にしかできない手法で作品を作る。彼の作品は、鉛筆の芯の摩耗と筆のインクの減少によって太さがかわっていく鉛筆や筆の線を切れ目なく続き描き続けることでできあがる。「筆、インク、和紙のためのドローイング」や「鉛筆削り、色鉛筆、布のためのペインティング(ドローイング)」は、その曲がどの楽器のために書かれたのかを示すクラシカル音楽のタイトルを想起させる。高島の作品は、時間と集中力を必要とする。そして、繊細でありながら力強く、美しい——日本の美術の多くがそうであるように